

私の時代

野口 義幸 (S57年卒/MC)

「よおー久しぶり」「えっ、おまえ野口?」大学を卒業して15年、お腹が出て髪の毛も薄くなった私はしっかりとオジさんになっていた。

一週間前、年はつか二つ上だがクラブでは同期だったベイスの秋本から電話があった。5月4日に2、3年前から彼の家でパーベキユーパーティーをやっているのだから来ないか?というお誘いだった。毎年ゴールデンウィークは健保の保養所に家族旅行という小市民的な生活をしていては私だが、その年は抽選に外れて暇をもらってあましていた折一も二もなく誘いにのることにした。

元々時間にルーズなメランコリーキッツの面々。約束の時間に15分遅れていった私が一番乗りだった。次々に訪れる仲間達は風貌は少し変わったものの、中身は15年前と全く変わっていない。「今日は末田は来ないの?」「昨日、本業が終わった後、トラで仕事があるって言っていたからまだ寝てるんじゃないの?」「どこかで久保園って何やってんの?」「うーん、技術屋さん」

そう言えば、真輝ちゃんが音楽の先生になった以外、他の人がどんな仕事をしているのかロクに知らなかった。当日、名刺を持っていたのは私とこの原稿を依頼してきた弘田先輩だけだった。

平成10年(1998年) 5月15日発行

GAKUYU

秋本氏の豪邸の屋上(そういえば何でこいつこんなすげー家に住んでいるのだろう?)で、たらふく飲んで食べた後、居間でコーヒープレイク、部屋の隅にはアコースティックピアノ

が置いてある。久保園がBGM変わりに弾き始めた。コーヒィが再び水割りに代わる頃、秋本がウッドベイスを持ってきた。ケネディリユートニールス・ペデルセンのようなデユオが始まった。二人とも学生時代よりも上手い。

聞けば、前の年も同じようにデユオをしたそうだが二人ともよく指が動かず、密かにこの日のために練習をしたそうだ。微笑ましい二人のミニリサイタルは終電間際まで続いた。

千鳥足で深夜帰宅した私は、埃だらけのスティックケースを押し入れから取り出した。



Music Spot



竹内直(S55年卒/MC)が、新作を録音。メンバーは竹内直(t.s.・t.e.r.・b.c.r.)、ロッド・ウィリアムス(p.)、ジャリフ・シャヒド(b.)、イライ・ファウンテン(d.s.)。録音に先立ち、3週間の全国ツアーを行い、竹内、ロッドのオリシナル曲とスタンダード・ナンバーを吹き込んだ。6月中旬にオフノートより発売。必聴です。

「峰厚介クインテット/BALANCEZ」

MGCJ-1003 ¥2,854 (税込)

「南博(p)/バード・イン・ベルリン」

MGCJ-1005 ¥2,854 (税込)

「スタン・ギルバート・ウエスト・コースト・オール・スターズ/シチリアーノ」

MGCJ-1006 ¥2,854 (税込)

「菊池雅章/LOVE SONG」(ピアノ・ソロ)

MGCJ-1001 ¥3,059 (税込)

「菊池雅章/POSSESSED」(ピアノ・ソロ)

MGCJ-1002 ¥2,854 (税込)

「菊池雅章/M」(ピアノ・ソロ)

MGCJ-1004 ¥2,854 (税込)

NOW IN STORES



(株)メディアリング 〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-32 赤坂山崎ビル2F TEL.03-5474-8851 FAX.03-5474-9540 高津敏栄(S48年卒/BSSO)